

特集

# 今井市長に聞く!

## おかやの明日に期待を寄せて...



岡谷市商工会議所青年部長の笠原新太郎さんと、岡谷市保育園保護者会連合会（小口保育園女性副会長）の武居博美さんが市役所を訪問。2期目のスタートを切った今井竜五市長に「人、輝きたくましいまち岡谷」の実現に向けての抱負や、今後の事業のあらましをインタビューしました。

**武居さん** 1期に引き続き、毎日めまぐるしいスケジュールでお仕事をされていらっしゃると思いますが、まずは、その元気の秘けつ、健康面で気をつけていることや日々のストレス解消法などを教えてください。

**市長** 食べるのが好きなので、食事をおいしくいただくこと、そして早く寝られるときは寝るようにするといったところででしょうか。特別、健康管理というほどのことはしていませんが、丈夫に産んでもらって、親に感謝しています。

最近山野草に興味を持って、花を觀賞するようにもなりました。

**笠原さん** 市長として、いちばん緊張するのはどんな時ですか？

**市長** 議会の答弁、あいさつ、交渉や折衝など、その都度、その場その場で緊張するんですよ。

慣れているんでしょう？と言われたりしますが、場面が違うので慣れることはないです。ただ、緊張感を持って望むことはいいことかな、と自分では思っています。

**笠原さん** 市長さんは、わたしの店にもよく来てくださいますし、本好きとお見受けしますが、どんな本を読まれるんですか。今までに感銘を受けた本、また好きな作家など教えてください。

**市長** 軽い時代小説を読むことが多いですね。最近の小惑星探査機はや

ぶさ関連の本も楽しく読みました。作家としては、司馬遼太郎さんが好きです。透明感があるでしょう。公平無私な若者の志に範を求めているのかもしれないですね。

### 【新病院について】

**笠原さん** さて、いよいよ2期目ということで、新病院建設も本格的な段階に入りますね。今やほとんどの市民が、いい病院にと期待をしますが、多額な建設費用だとか、医師不足の問題などを耳にすると、経営は大丈夫なのかなど、心配にもなります。市長としては、問題乗り越えてやり遂げていくぞと覚悟を新たにされていることと思いますが、その辺のお考えをお聞かせください。

**市長** 病院の経営改善を進めるな







か、2年前には塩嶺病院で日大との関係などもあり、市民のみなさんに「ご心配をおかけしましたが、昨年4月から施設集約というかたちが整い、現在も改革が進んでいるわけです。しかし現状では、医療資源の分散化、施設の老朽化などもあり、パワーも半減し、経営効率も十分とはいえ、みなさんの信頼と期待に応えるためにも、機能的な新病院の建設を考えています。先般、新病院の基本構想をお示したところで、今後も基本設計などが具体化する節目、また次の節目というように段階ごとお知らせをし、ご意見をいただきなご計画を進めていきます。90億円という建設費についても、今後できるだけ減らしていく努力をしていきます。

経営改善を続けながら、「思いやりの医療」の提供によって、病院づくりを推進したいと考えています。

**武居さん** 子どもたちもお世話になりますし、新病院の動向に注目しています。魅力ある病院を創るとなると、やはり医師の確保というのが重要な課題になりますよね。

**市長** ご承知の通り、全国的にとくに地方では医師不足がたいへん深刻で「確保します、できます」と、簡単にはお答えできない状況にあります。とはいえ市民病院としての役割を果たしていく以上、人材確保に積極的に取り組み、医療の充実を図っていくかなくてはなりません。派遣元の大病院と、またドクターバンクを設け医師確保に努力いただいている県とも連携を深めながら、もちろん病院スタッフとも協力し、一丸となつて努力を重ねていきます。

また、岡谷、諏訪地方に縁のあるお医者さんに、振り向いてもらえるような働きかけもしていきたいと考えています。みなさんも、お知り合いにお心当たりのお医者さんがいらっしやったら、ぜひご紹介ください。

**笠原さん** まちのクリニックでも、わたしたちが通院するのは、先生の人柄や実績を頼つてのことです。建物はお金でなんとかなりますが、よりよい医療サービスという点から見ても、医師を集めることがとても重

要だと思えます。だとすれば、病院を魅力のある職場としてとらえ、働きやすい、安心して勤められる環境を整えていくのも大切ではないでしょうか。

**市長** その通りですね。新病院は、まず患者さんにとって快適な環境を提供できなくてはいけないと思っておりますが、もうひとつ、働きがい、働きやすい環境づくりというのがとても大切です、それが、医師、看護師、医療スタッフの確保につながると考えています。

新病院では、最新の医療機器の導入や、医師が勉強や研究を続けられる環境の提供も視野に入れ、モチベーションを発揮できる就業環境の実現をめざしていきます。



最新の医療機器を導入



現在進めている基本設計は、現場の意見を反映させながら、まとめているところです。

**笠原さん** 仕事にプライドを持ち、理念を貫いてくださるような志の高い人に集まってほしいですね。

**市長** 昨年、病院事業管理者のもとで、「思いやりの医療」を中心にすえた病院の基本理念が作り替えられました。地域のみなさんに愛され頼りにしてもらえ病院にという医療従事者の強い思いこそが、岡谷市民病院の推進力ですので、その志に応える仕組み作りをし、しっかり後方支援していきたく考えています。

新病院では、「思いやりの医療」を引き続き実践し、やさしさの感じられる対応で、プライバシーの配慮などもしていきます。期待してください。

**【新消防庁舎について】**

**武居さん** 2期目には、消防庁舎を新しくする、という大仕事にも着手されると聞いています。どんな構想をお持ちなのでしょう。

**市長** 新消防庁舎は、安全・安心なまちづくりの拠点として整備を進めます。建設用地は、平成15年に取得していたものの、県の消防広域化の流れから、足踏みをする状況が続いていました。広域化が一旦棚上げとなり、諏訪広域圏内の位置づ

けが明確となったので、諏訪広域消防の本部、消防救急無線のデジタル化に対応した通信司令センターとして機能する、消防庁舎建設に向けて動き始めました。

震災を受けて、公共施設の耐震化を順次進めていくなかで、防災拠点の機能強化をまず実現しようと考えてのことです。

**笠原さん** 地震や台風、ゲリラ豪雨もそうですが、災害は起こるものと想定していかないといけないと思います。消防庁舎はハード面の備えになります。ソフト面での対策、お考えはいかがですか。

**市長** 災害の発生を防ぐというのはなかなかできることではないので、減



災によつて被害を小さくくいとめることを考えていかななくてはなりません。そのためには、平成18年7月豪雨災害を忘れることなく、教訓として生かしていくことが重要と考え、災害から5年たった今年、7月19日を岡谷市防災の日と定めました。今後も災害を記憶にとどめ、繰り返し啓発していくことで、防災意識を高めていかれると思います。

防災ラジオ、防災行政無線、シルキーチャンネルなど、情報を的確に伝えていく道筋も、市民のみなさんのご協力で整ってきていますが、いざというときには、隣近所の助け合いが大切です。安全なところに、みんなで迅速に避難すること、それを徹底させるためにも、地域の防災力向上に力を入れていきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

**【岡谷ブランドについて】**

**笠原さん** 「ブランド推進室」に期待しています。岡谷のまちの宝を誇りに思い、かおり高い文化のまちをつくり、暮らして豊かさをもたらし、ためには、近代化産業遺産もそうですが、カノラホールも、もつといろいろな市民主体の利用の幅が広がっていくといいですね。

**市長** カノラホールは、岡谷を表すブランドのひとつ、すばらしい施設だと思っています。サイトウキネンの

録音に使われたこともありましたが、音楽、芸術文化の発表の場としてはもちろんですが、もうひとつは、子どもたちが練習を積む場として、大いに活用してほしいと考えています。今年是利用料金の見直しも、練習室も使いやすくなったと思います。

**武居さん** 最近、小中学校の音楽会にもカノラホールが使われても、演奏する子どもたちにとつて、どれほどいい経験になっているかわかりません。

武井武雄作品も岡谷が誇る財産ですね。保育園でも子どもたちをイルフ童画館へ連れて行ってくださったりして、小さなうちから、自分の目で本物を見る機会に恵まれていることに感謝しています。岡谷ブランドという観点から、どんなふうに武井武雄を打ち出し、イルフ童画館を活用していくか、お考えがあったら教えてください。

**市長** 2014年に武井武雄生誕



カノラホール大ホール

イルフ童画館



120年を迎えることから、どのようにプロモーションしていくか、今まさに知恵をしばっているところですが、そのさきがけとして、先日、笠原書店さんで作品展などのイベントを開催していただきました。その際、民間の発想での展開は、認知を広げる大きな力だと感じました。童画という世界を確立した郷土の大先輩、武井武雄先生を、市民のみなさんのアイディアや協力によって、岡谷発のブランドとして育て、県外へ、そして世界にも発信したいと思っています。

**【湖周ごみ処理施設について】**

**武居さん** わが家では、この一年、子どもたちも、ごみの分別がだいぶ



わかるようになり、家族でごみの減量や資源化に関心を寄せています。新しいごみ処理施設の建設には、諏訪市、下諏訪町と緒に取り組みたいことですが、なぜ共同で行うのですか。

**市長** 循環型社会の構築をめざし、この9月には、湖周2市1町がごみ処理を共同で行うための「湖周行政事務組合」が発足しました。平成27年度の共同処理施設稼働までという取り決めのもと、各市町がごみの減量化に取り組むなか、岡谷では、昨年の4月から実施した家庭ごみ等の有料化とその他プラスチックの分別回収への市民のご理解とご協力によって、平成27年度の達成目標を上回る35パーセントの減量を、すでに達成した状況になっています。

リバウンドすることなく、さらに努力をしていけば、施設規模を小さくして、環境負荷のより少ない施設にすることができると思っています。共同でごみ処理を行うメリットは、経済性や効率にとどまらず、環境にもエネルギーも貢献するものでも、もし各市町が個々に整



備するとなると、それぞれが受入能力に余裕を持たせなくてはならず、コストもかかり、ダイオキシンなどの発生も増えてしまうでしょう。ごみ処理施設は岡谷に造りますが、灰の処理は諏訪市で行うなど、広域で協力していくことは、諏訪圏の将来を展望するうえでも、意義があるのではないのでしょうか。

**【産業振興について】**

**笠原さん** 小売業をしていることもあって、政策の柱に産業振興を掲げてくださっていることを心強く感じているんですが、日本中で中心市街地の空洞化が深刻化しています。岡谷も例外ではないなか、その対策にどんなビジョンをお持ちでしょうか。

**市長** 特効薬はないのですが、若い人、やる気のある人を支援していくこと、もうひとつは、岡谷の市内で買い物してもらおう仕組みづくりを進めることだと思っています。空き店舗の利用や店の改修のための補助金、おかぼんポイントの活用、また新たに商売をという人を支援するチャレンジショップなどもありますので、行政として、行政だからできることで、努力している人を育て、守り、応援したいと思っています。

**笠原さん** 岡谷のなかにいると、当たり前前に感じてしまいがちですが「岡谷は市の融資制度が手厚いね」

という話を外の人からよく聞きます。自分たちでできないこうした支援は、継続していただきたいですね。

**市長** 基幹産業の製造業を軸とした産業振興で、活力のあるたくましまちにと、1期目の最初から力を入れてきました。融資制度にしても、メニューをそろえ、借りやすい仕組みをつくりましたし、県や市の融資には保証料を市が払って利用できるように、とにかく門前払いをしないことを前提に、担当職員もがんばっていますので、融資にかかわらず、気軽に相談窓口を訪ねていただきましたと思います。店をつくる、会社を広げるということは、市ではできませんが、その準備資金を用意する方法的提案などは可能ですし、また現場の知恵をもらって、支援がより具体化できればと思います。



**笠原さん** 工業については門外漢なのですが、企業誘致について、研究

開発型企業、世界的な企業に來てもらいたいというお話をうかがいました。それはどういう意図で、どんなふうに進めていくのでしょうか。

**市長** ご承知の通り、岡谷には広くて平らで安い土地がほとんどなく、大規模な工場を呼んでくることは難しいので、誘致のターゲットを、企業の研究開発部門だったり、研究開発型の企業にしています。また、市内企業に発注してくれる企業であれば、国籍にこだわらなくてもいいですね。実際には、台湾系の企業と中国の企業の誘致が実りましたが、これからの、新規成長産業に関わる企業に、積極的に働きかけていきます。

**【子育てについて】**

**武居さん** 産業振興と並んで、力を入れていただいている子育て支援では、子育て応援パスポートなど、目に見え利用できる、実のあるサービスをうれしく感じています。また、子どもが地域のひととふれあえる放課後の居場所づくりは、核家族家庭



誘致に成功したAOFジャパン(台湾系企業)



も多いので、貴重な時間と体験だと思います。そうした子育て支援の施策について、その進み具合や評価についてお聞かせください。

**市長** 入院、通院の医療費無料化の対象年齢を中学3年生までに引き上げたこと、放課後の居場所づくり事業が、地域の協力により、8校すべての小学校で実施できたことは、大きな成果だと自負しています。放課後の居場所づくりでは、異年齢の子どもと一緒に遊び、子どもと地域のみなさんが存在感を認め合い、保護者が安心できるなど、思った以上の波及効果があり、子どもたちが健全に育つ土壌づくりができています。

若い世代の人たちが、安心して子どもを産み育てることができ環境を整えること、たとえば働く場所の確保や買い物する場所の充実、学校や公共施設の耐震化などもそうです

が、こうしたバックアップをしていくことは、実はまちの活力アップにもつながると思っています。

**武居さん** 関連して、保育園の整備計画についてお聞きがしたいと思いますが、岡谷市は保育園の数が多く恵まれた保育環境にあります。古い施設もあり、先日、各園で開いていた「保育園について語ろう会」でも、改修して園を残すのか、統廃合し、いい環境で保育サービスを提供していくのか、意見もさまざままで、保護者にとっても気になります。市としての見解をお話してください。

**市長** 市内の保育園には、確かに老朽化が進んでいる建物も多いのですが、最盛期に比べると市内の園児数



保育園給食風景

放課後子どもの居場所づくり



が半分以下になっていく状況がありますので、市として保育園の方向性を固めていく時期に来ていることは間違いありません。保育園の整備は、保護者のみなさん、地域のみなさん、保育士のみなさんからも意見をうかがい、それらを参考にたたき台を用意し、またご意見をうかがうという手順を踏んで計画を詰めていくつもりです。少子化という現実を受けとめ、岡谷の財政の状況も考え、きちんとした施設を整え、特別保育を充実させていくというののもひとつの方法だと思えます。子どもの育ちに

関わることで、お金だけで線を引くことなく、さまざまご意見に耳を傾けて、検討を深めていきたいと思えます。子どもはかけがえない宝ですので、みんなで大切に育てていきたいですね。

**笠原さん** 平等公平の立場で、広く話を聴き、相反する意見もまとめて決断していかなくてはいけないというところに、行政の難しさを感じますね。

**市長** 行政の仕事というのは、守備範囲がものすごく広いんです。その一方で行財政改革、市役所の効率化も求められ、市の職員は、本当によく働いてくれていると思っています。わたしは、民間から入ってきた人間ですので、まだまだ教えてもらうことも多いのですが、行政のトップと

して、自分自身がぶれずにいることで、みんなについてきてもらい、会話をしながら、思いをくみ上げて能力をフルに引き出し、存分に仕事をしてもらえるよう努めていかなければと思っています。

また市民のみなさんにもお願いですが、市政に興味を持ち、どうか積極的に意見を寄せてください。市民のみなさんの声につねに耳を傾け、市民起点で市政運営を心がけていくというのがわたしのモットーでもあります。客観的なみなさんの意見により、施策をよりよいものにしていくことができますので、ぜひよろしくお願います。

きょうは、いい機会を作っていただき、本当にありがとうございました。



今井市長を囲んで(平成23年9月29日)  
笠原新太郎さん(向かって左)、武居博美さん(向かって右)